

## 美瑛富士・携帯トイレシステム7年目の活動報告

美瑛富士トイレ管理連絡会  
事務局 山のトイレを考える会

### 1. 固定式携帯トイレブース設置から3年目

2019年9月に、環境省により、それまでのテント式携帯トイレブースに代わり、固定式携帯トイレブースが設置・供用開始されました。

2019年4月25日に北海道地方環境事務所、美瑛町、美瑛富士トイレ管理連絡会の三者で「美瑛富士携帯トイレブースの維持管理に関する協定書」を締結し、また、環境省は固定ブースの改築及び改修・大規模な修繕、美瑛町は軽微な修繕と冬囲い・回収ボックスの管理、そして美瑛富士トイレ管理連絡会はブースの点検及び清掃・周辺の清掃を担うことを決めました。

そして2021年シーズンを迎え、清潔なトイレブース、ティッシュや汚物の無い野営指定地、ゴミの無い綺麗な小屋となるよう、美瑛富士トイレ管理連絡会では点検パトロールを継続実施しました。



テント式携帯トイレブース  
(2015年～2019年)



固定式携帯トイレブース  
(2019年9月～)

### 2. 2021年点検パトロール等の実施状況

2021年も美瑛富士トイレ管理連絡会により、6月27日～10月3日までの3ヵ月あまりの間、固定ブースの点検パトロール・維持管理を8回予定、コロナ禍の影響で2回は中止となったものの、美瑛山岳会の自主点検を含めて7回実施することができました。

- ・ 6月27日(日) …携帯トイレブースの冬囲い外し

(環境省・美瑛山岳会・山のトイレを考える会)

- ① 7月11日(日) …大雪山国立公園パークボランティア(PV)連絡会・環境省:7名
- ② 7月18日(日) …札幌山岳連盟:6名
- ③ 7月25日(日) …日本山岳会北海道支部:5名

- ④ 8月 1日 (日) …北海道山岳連盟：5名
- ⑤ 8月 7日 (土) …山のトイレを考える会：5名
- ⑥ 8月 29日 (日) …道央地区勤労者山岳連盟：コロナ禍で中止
- ⑦ 9月 12日 (日) …道北地区勤労者山岳連盟：コロナ禍で中止
- ⑧ 9月 15日 (水) …美瑛山岳会 (自主点検)：2名
- ⑨ 9月 27日 (月) …北海道山岳ガイド協会：2名
- ・10月 3日 (日) …携帯トイレブースの冬囲い  
(環境省・美瑛山岳会・山のトイレを考える会)

延べ7回32名



点検パトロールを終えて



パトロールと併せてトイレマップ等の配布



身を潜めやすい場所に汚物が



便座は水や除菌シートで拭き上げ

### 3. 点検パトロール実施報告から

美瑛富士トイレ管理連絡会の参加団体等から次のような報告がありました。

《固定式携帯トイレブースについて》

- (1) 固定アンカーが2個外れていたのを再設置した。(冬囲い外し時)
- (2) 屋根のポリカーボネートと柱を固定するビスが外れていたのを応急処置した。(冬囲い外し時)
- (3) トイレトペーパーの残置があった。(大雪山パークボランティア連絡会)
- (4) アンカーが緩んでおり、応急処置した。(札幌山岳会、山のトイレを考える会)
- (5) 屋根のポリカーボネートと柱を固定するビスが外れていたのを新しいビスで補修。さらにビスが途中で折れている場所があり、来年度の補修検討。(冬囲い時)

### 《その他》

- (1) ラミネート類の劣化が目立つ。(大雪山パークボランティア連絡会)
- (2) 小屋の窓枠や看板の腐敗が進んでいる(大雪山パークボランティア連絡会、札幌山岳会)
- (3) 縦走路には汚物や紙が目立ったが、携帯トイレが一般化していない道外登山者によるものの可能性があるから、さらにアピールが必要。(日本山岳会北海道支部)
- (4) 小屋内に残置ゴミがあり、回収廃棄した。(美瑛山岳会)
- (5) テント場のゴミの放置あり。マナーを守れない登山者は少数ながら常に存在するから、地道な清掃活動や啓発活動が必要。(北海道山岳ガイド協会)



固定ロープは前年度よりは改善



荒天下での冬囲い(10月3日)

## 4. 携帯トイレブースの利用数

2021年のカウンター値から携帯トイレブースの利用数を把握しました。カウンターの誤動作を考慮し推定した結果“201”となりました。近年安定した数字ですが、2020年、2021年はコロナ禍で登山者が減少したと想定した場合、利用者は微増傾向といえます。

(表-1) 2021年携帯トイレブースのカウンター値

月/日	7/11	7/18	7/25	8/1	8/7	9/15	9/27	10/3
数値	24	54	126	*1152	*1159	*1175	*1200	*1201

\*誤動作 1000+ ⇒ 推定利用数：201

2015年～2021年の利用数は(表-2)のとおりです。

(表-2) 年度別携帯トイレブースの利用数

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
利用数	※88	179	180	196	218	203	201

※誤動作により、88以上としか推定できず

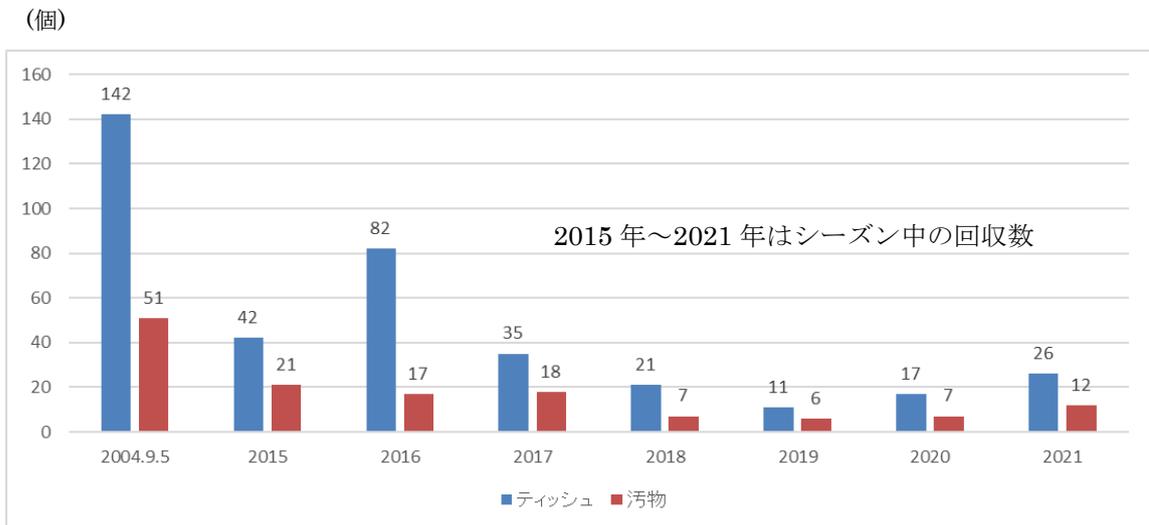
## 5. ティッシュ、汚物の回収状況

2015年から試行実施して7年目が終わりました。ティッシュや汚物の回収は、2021年にはそれぞれ26個、12個。前年より微増しているものの、都度の回収エリアもまちまちであり、マナー悪化などの分析は尚早と思います。年度別推移を(図-1)に示します。

この7年間の回収数は2004年と比較すると激減しており、携帯トイレブースや回収ボックスの設置、さらに広報活動、啓発活動等、いろいろな施策の成果だと分析されます。

登山者が安心して携帯トイレを使用できる環境整備、さらに美瑛富士避難小屋を利用する場合は携帯トイレを必ず所持する広報など地道に活動を継続していきます。

(図-1) 美瑛富士のティッシュと汚物回収数の年度推移



## 6. 認識率と所持率向上に向けて

2020年度まで環境省が実施してきた、美瑛富士避難小屋における携帯トイレの認識率、所持率の調査も、近年は認識率90%、所持率80%弱と高率で推移していることから2021年度は実施されていません。

これからの課題の1つとして、コストの低減があります。登山者から「小用に携帯トイレ500円は高価」との意見も聞きます。ピーボトル（小便を入れておくための容器：広口不透明でループ付きの蓋付きのものが望ましい）の紹介や、より安価で使いやすい携帯トイレの開発も望まれるところです。

各種周知については環境省、林野庁、自治体、山岳団体、宿泊施設、登山用品店などそれぞれ多様な方法で広報に協力していただきました。今後も影響力の大きい新聞報道の機会も増やすように努めると共に、身近からできる取組みとして、facebookやInstagram、ヤマレコ、YAMAP等での一般登山者からのSNS投稿を増やす等の施策を行い、更なる所持率の向上を目指したいと思います。

## 7. 次年度(2022年度)に向けて

携帯トイレの使用規模の把握のために、使用済みの携帯トイレの回収数をもってその評価指標とする考え方を採り、調査対象の使用済み携帯トイレ回収ボックスにプッシュ式のカウンターの取付けを検討しています。昨年、銀泉台の回収ボックスに取り付けた誤作動防止の工夫を施したタイプを使用します。



銀泉台設置のカウンター

美瑛富士避難小屋周辺でのティッシュや汚物の回収数は、ここ数年横ばい傾向にあります。マナーを守れない登山者は少数ながら一定割合いるとしても、その割合を減少させて、限りなくゼロにするために、そして携帯トイレの認識率や所持率を100%に近づけるために、美瑛富士トイレ管理連絡会では引き続き点検パトロール作業並びに各種啓発活動を担っていきます。

(以 上)

(備考) 美瑛富士トイレ管理連絡会の構成団体＝北海道山岳連盟・札幌山岳連盟・北海道勤労者山岳連盟・北海道道央地区勤労者山岳連盟・北海道道北地区勤労者山岳連盟・日本山岳会北海道支部・北海道山岳ガイド協会・大雪山国立公園パークボランティア連絡会・山のトイレを考える会

(文責：杉下 圭史)